

【地方創生拠点整備タイプ】 未来体育館での健康・地域活性化事業	事業開始前	令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		KPI増加分 の累計
	(現状値)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
K P I ① スポーツツーリズムによる経済波及効果 (万円)	140,168.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		40,000.0		32,332.0		0.0
K P I ② スポーツ合宿誘致件数 (件)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		50.0		50.0		0.0
K P I ③ 年間宿泊者数 (百人)	918.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		50.0		50.0		0.0
K P I ④ 文化・スポーツ複合施設利用者数 (人)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		30,000.0		10,000.0		0.0

※現状値は、平成30年度の確定値

四方八方絶景三昧！ActiveField形成プロジェクト	事業開始前	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		KPI増加分 の累計
	(現状値)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
K P I ① 八ヶヶ原の観光入込数 (人)	153,930.0	10,000.0 (163,930.0)	18,730.0 (172,660)	15,000.0		15,000.0		10,000.0		10,000.0		18,730.0
K P I ② 山の駅たかはらの利用者数 (人)	61,215.0	3,000.0 (64,215)	8,655.0 (69,870)	8,000.0		6,000.0		2,000.0		2,000.0		8,655.0
K P I ③ 山の駅たかはらの売上高 (万円)	1,886.0	260.0 (2,146)	-325.0 (1,561.0)	470.0		120.0		40.0		20.0		-325.0

※現状値は、令和元年度の確定値

【地方創生推進タイプ】 ネットワークで健幸を推進する「connect with ハピネス」	事業開始前	令和2年度		令和3年度		令和4年度		KPI増加分 の累計
	(現状値)	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	
K P I ① 定住補助金申請件数 (累計) (件)	727.0	85.0 (812.0)	80.0 (807.0)	87.0 (894.0)	88.0 (895.0)	90.0 (985.0)	71.0 (966.0)	239.0
K P I ② 健康ポイント付与総数 (累計) (千ポイント)	3,000.0	2,700.0 (5,700.0)	3,214.2 (6,214.2)	3,600.0 (9,814.2)	3,475.8 (9,690.0)	4,500.0 (14,190.0)	3,709.4 (13,399.4)	10,399.4
K P I ③ はつらつ館利用者数 (人)	8,900.0	50.0 (8,950.0)	-5,841.0 (3,059.0)	100.0 (3,159.0)	1,831.0 (4,890.0)	200.0 (5,090.0)	2,075.0 (6,965.0)	-1,935.0
K P I ④ 市営バス利用者数 (1日あたり) (人)	74.5	0.5 (75.0)	-14.7 (59.8)	1.0 (60.8)	4.2 (64.0)	1.5 (65.5)	19.6 (83.6)	9.1

※現状値は、令和元年度の確定値

※目標値は前年度比の増加量を示す。カッコ内は、前年度の実績値にKPI増加分(目標値)を足したもの。  
 ※実績値のカッコ内は、当該年度の現状値を示す。

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）  
効果検証シート（R4実績分）

事業名	未来体育館での健康・地域活性化事業						
事業概要	<p>スポーツ交流人口の更なる増加や、市民の健康づくりを進めるため、AI、5G通信を活用した未来技術を導入した文化スポーツ複合施設を中心市街地の「とちぎフットボールセンター」同一敷地内に整備する。</p> <p>未来技術を活用して文化活動の映像配信、スポーツ活動の行動分析、市民の健康診断及び保健指導のほか、スポーツ合宿の誘致等のスポーツツーリズムの展開を図り、地方創生の拠点施設としてまちづくりを推進していく。</p> <p>未来技術を活用した事業にて得られたビッグデータは民間に対して共同利用を図り、施設を中心としてSociety5.0の実現と発信を進める。</p>						
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>「とちぎフットボールセンター」敷地内に、バスケットボールコート2面、うち1面は収納可能な観覧席を有する文化スポーツ複合施設を建設する。</li> <li>施設内にはAI技術等の未来技術を導入し、映像データ、運動データ、健康づくりデータ、周遊・行動記録データ、障がい支援データ、災害関連データを取得、蓄積していく。</li> <li>スポーツ・文化活動の映像配信、トレーニング環境の整備とスポーツドック事業、健康ステーション事業、地域・観光情報サービス事業、施設利用者への各種情報提供等の事業を実施し、市内外から人を呼び込み地域経済の活性化を図る。</li> </ul>						
KPI①	スポーツツーリズムによる経済波及効果（万円）						
KPI②	スポーツ合宿誘致件数（件）						
KPI③	年間宿泊者数（百人）						
KPI④	文化・スポーツ複合施設利用者数（人）						
	事業開始前 （現状値）	1年目 令和3年度	2年目 令和4年度	3年目 令和5年度	4年目 令和6年度	5年目 令和7年度	KPI増加分 の累計
目標値（KPI①）	140,168.0	0.0	0.0	0.0	40,000.0	32,332.0	72,332.0
目標値（KPI②）	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0
目標値（KPI③）	918.2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	100.0
目標値（KPI④）	0.0	0.0	0.0	0.0	30,000.0	10,000.0	40,000.0
実績値（KPI①）		0.0	0.0				0.0
実績値（KPI②）		0.0	0.0				0.0
実績値（KPI③）		0.0	0.0				0.0
実績値（KPI④）		0.0	0.0				0.0
予算額(円)				実績額(円)			
施策の有効性	<p>中心市街地に位置する既存のサッカーフィールドに隣接して文化活動、スポーツ活動を並行して実施できる複合施設を整備し、最先端のデジタル技術を導入して様々な事業を展開することにより、単なる文化活動・スポーツ活動にとどまらず、市民の健康増進、スポーツツーリズムの推進拠点として市内外からの人の流れを作り、地域活性化を図ることができる。</p>						
達成できなかった理由	施設建設中であり実績なし。効果検証は令和6年度以降。						
今後の方針	<p>令和4年度、令和5年度の2か年をかけて拠点となる文化スポーツ複合施設を整備し、令和6年度当初の開業を目指す。</p> <p>AIカメラによる映像配信、3Dスキャナーと体組成計による体形の可視化、センサー機器による筋力・持久力・俊敏性等の測定、スマートフォンアプリによる観光情報・防災情報の提供、予約システムによる施設管理の効率化など、単なる文化芸術・スポーツ活動の場ではなく、デジタル技術を活用したDXの実現、市民健康の増進、スポーツツーリズムによる地域経済の活性化を推進していく。</p>						

## デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ） 効果検証シート（R4実績分）

事業名	四方八方絶景三昧！ActiveField形成プロジェクト						
事業概要	<p>これまで来訪客の集中時期に波があった八方ヶ原について、「通年型・滞在型観光」を実現するため、ポストコロナに向けた観光需要に対応可能なアウトドア体験や宿泊が可能となるよう、山の駅たかはらの機能や観光コンテンツの拡充を図ることで、八方ヶ原全体の観光入込人数の増加と観光消費額の増加を目指す。</p>						
事業内容	<p>山の駅たかはらをアウトドア観光の拠点とするため、施設内に受付用カウンターや施設利用者向けのWi-Fi環境を設置するほか、キャンプ場やアウトドアアクティビティ利用者が利用するためのシャワー室の設置をおこなう。</p> <p>山の駅たかはらの周辺では、指定管理者や地域の事業者によるキャンプ場の運営やキャニオニング、マウンテンバイク、スノートレッキングなどのサービス提供を行うものとする。</p>						
KPI①	八方ヶ原の観光入込数（人）						
KPI②	山の駅たかはらの利用者数（人）						
KPI③	山の駅たかはらの売上高（万円）						
	事業開始前 （現状値）	1年目 令和4年度	2年目 令和5年度	3年目 令和6年度	4年目 令和7年度	5年目 令和8年度	KPI増加分 の累計
目標値（KPI①）	153,930.0	10,000.0	15,000.0	15,000.0	10,000.0	10,000.0	60,000.0
目標値（KPI②）	61,215.0	3,000.0	8,000.0	6,000.0	2,000.0	2,000.0	21,000.0
目標値（KPI③）	1,886.0	260.0	470.0	120.0	40.0	20.0	910.0
実績値（KPI①）	/	18,730.0					18,730.0
実績値（KPI②）	/	8,655.0					8,655.0
実績値（KPI③）	/	-325.0					-325.0
予算額(円)	35,420,000			実績額(円)	34,595,000		
施策の有効性	<p>山の駅たかはらの売上高については達成できなかったが、八方ヶ原の観光入込数、山の駅たかはらの利用者数については目標値を達成した。特に山の駅たかはらは八方ヶ原の拠点施設として多くのお客様にご利用いただいたことから、施策は有効と判断できる。</p>						
達成できなかった理由	<p>山の駅たかはらについては山の中腹にある施設ということで、取引先が納品に難色を示し、仕入れ条件が合わないことが多く、仕入先の見直しを行っていたところであった。そのため、多くのお客様が来店したにも関わらず、商品供給が不安定であり、売れ筋商品が欠品となってしまったこと、欠品のためお客様の購入意欲を高める商品の見せ方が出来なかったことが挙げられる。</p>						
今後の方針	<p>山の駅たかはらのホームページや、日本最大級のキャンプ場検索予約サイトから、キャンプ場の閲覧や予約ができることから、Wi-Fiやシャワー室の設置をアピールし、特に首都圏からの利用者数の増加を図る。また、商品の欠品を無くし、購買機会を多くすることで、売上高の増加を図る。</p>						

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）  
効果検証シート（R4実績分）

事業名	ネットワークで健幸を推進する「connect with ハピネス」				
事業概要	<p>令和2年度における人口ビジョン推計値等を上回るペースで人口減少と少子高齢化が進んでいる。また核家族化や単身世帯、ひとり親家庭が増加し、地域のコミュニティの希薄化が進むことにより地域の共助機能が低下しており、それに伴い高齢者の送迎等の公共交通の必要性も高まっている。</p> <p>今後のさらなる少子高齢化と人口減少に備え、市民および市を訪れた人の状況や目的に応じた相互の情報交換や助け合いの場・グループの形成、その担い手としての定住・交流人口の増加、誰もが運動できる環境や仕組みの構築による健康増進、公共交通体系の充実による都市部と農村部のネットワーク化を図ることにより、コンパクトなまちなかエリアで健康で幸せに過ごせる地域を形成する。</p>				
事業内容	<p>本事業では、市民の健康推進や子育て支援施策の充実、移動促進のためのネットワーク構築、まちづくりのプロモーション事業を行う。これらのデマンド交通を中心とした移動ネットワークによるコンパクトシティ化の促進や運動を中心とした施策により、人の流れを活発にし、若年層の定住を図っていく。</p> <p>これらの施策を連続的に展開し、または組み合わせることで、人々の活動を活性化し、まちの賑わいを取り戻すとともに、多様な人々の交流の中で多くの情報交換や助け合いの関係性を生んでいく。</p>				
KPI①	定住補助金申請件数				
KPI②	健康ポイント付与総数（千ポイント）				
KPI③	はつらつ館利用者数				
KPI④	市営バス利用者数（1日あたり）				
	事業開始前 （現状値）	1年目 令和2年度	2年目 令和3年度	3年目 令和4年度	KPI増加分の 累計
目標値（KPI①）	727.0	85.0	87.0	90.0	262.0
目標値（KPI②）	3,000.0	2,700.0	3,600.0	4,500.0	10,800.0
目標値（KPI③）	8,900.0	50.0	100.0	200.0	350.0
目標値（KPI④）	74.5	0.5	1.0	1.5	3.0
実績値（KPI①）		80.0	88.0	71.0	239.0
実績値（KPI②）		3,214.2	3,475.8	3,709.4	10,399.4
実績値（KPI③）		-5,841.0	1,831.0	2,075.0	-1,935.0
実績値（KPI④）		-14.7	4.2	19.6	9.1
予算額	108,118,200		実績額		94,377,154
施策の有効性	<p>KPI①：市内外の転入・転居者に対し手厚い制度であり、人口流出防止策としても有効である。</p> <p>KPI②：621人の参加者により、3,536千Pが市内利用可能な商品券と交換され市民の健康増進と地域経済に活性化に寄与した。</p> <p>KPI③：稼働日数増及び利用者増が高齢者のコミュニティや介護予防に繋がる。</p> <p>KPI④：「交通弱者」の生活の足を確保するために必要な施策であり、市営バス利用者の約75%を占める高齢者の移動手段として有効である。</p>				
達成できなかった理由	<p>KPI①：急激な物価高による建築コスト上昇などの理由により、全国的に住宅着工件数が減少しており、本市においてもその影響を受けたため。</p> <p>KPI②：コロナ禍により令和2年度からの継続参加者を含めた令和4年度のポイント付与対象人数が想定より約60人少なくなったため。</p> <p>KPI③：年度当初は3蜜回避のため参加人数を制限したため。後半は制限緩和と稼働日数を増やしたが、目標値には届かなかった。</p> <p>KPI④：達成</p>				
今後の方針	<p>KPI①：立地適正化計画における誘導方針と整合を図り、補助制度の改正を行った。本制度をより広く効果的にPRする。</p> <p>KPI②：参加対象は40歳以上だが、60代・70代が73.4%を占めており、40代・50代の参加を促進するためにスマホアプリなどの導入検討も必要である。</p> <p>KPI③：コロナの5類移行に伴い、チラシやHP等を利用して情報発信を行い、既存利用者だけでなく新規利用者の増加に努め、利用者の増加を図る。</p> <p>KPI④：令和3年10月に中央部循環路線とデマンド交通を導入し、制度及び利便性を周知した結果、利用者増となった。引き続き制度等を周知していく。</p>				